

2024 年 1 月 19 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

首都圏の母親が求める産後の支援：  
産後ドゥーラへのインタビュー調査

Postpartum Support Sought by Mothers in the Metropolitan Area:

An Interview Survey of Postpartum Doulas

22MW001

伊澤乃愛

## 要旨

**目的：**首都圏で産後の母親の生活に着目した支援を行い活動する産後ドゥーラに対するインタビュー調査より、母親が抱えている悩みや求める支援を知り、産後ドゥーラの産後の母親たちへの支援の実際から、首都圏で子育てをする母親とその家族へどのような支援を提供すべきかを考察することを目的とした。

**方法：**一般社団法人ドゥーラ協会の産後ドゥーラ養成講座を受講したのち、産後ドゥーラとなり首都圏にて母親に対して産後支援を行っている産後ドゥーラ 3 名を対象とし、半構造化面接を用いた質的記述的研究を行った。得られたデータの逐語録を作成し、産後ドゥーラの実際の支援、産後の母親の悩み、産後の母親の求める支援の視点で質的帰納的分析を行った。語りを意味内容ごとにコード化し、内容を統合してサブカテゴリーを作成した。さらに、サブカテゴリーの相違点や類似性を比較してカテゴリー化した。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号: 23-A068）を受けて行った。

**結果：**研究対象者は 3 名であった。産後ドゥーラとしての経験年数は 3 年から 8 年、産後ドゥーラとしての経験件数は 3 名全員 100 件以上であった。インタビュー時間は、49～53 分（平均 51 分）であった。分析の結果、40 のコード、24 のサブカテゴリー、13 のカテゴリーを抽出した。産後ドゥーラが行う支援として【生活環境を整え母親の心理身体的負担の軽減】【そばにいて頼ってよい存在がいる安心感】【生活状況を観察した必要な支援提供】【母親を理解し寄り添う心構え】【自分だけではないという気づきを促す関わり】【家族にポジティブな感情を向けるきっかけづくり】があった。産後の母親が抱える悩みとして【正解のない育児への戸惑い】【成長に伴い日々湧き上がる疑問】【母親 1 人の育児や家事の負担が大きいことによる孤独】を抱えており、産後の母親の求める支援として【医療者でないからこそその親しみやすさ】【育児と家事の両方の支援】【自分のことを理解してくれる存在】があり、【母親が対応しきれない不安があるときの需要】があった。

**結論：**首都圏で子育てをする母親とその家族に対して、孤立を感じる前に必要な支援を信頼している人から受けられること、母親と家族が抱える問題が何なのかを傾聴・理解、問題の解釈をし、よりよい支援の探究と実践をしていくことが必要であると考えられる。また、育児に関する専門的知識を持った者からの支援をいつでも必要な時に、対象者が暮らす地域で支援を受けられるという体制を構築していくことの必要性が示唆された。